



# “戦争のできる人づくり”を許さない



文部科学省は、去る3月末に小学校道徳と高校教科書の検定結果を公開した。

小学校道徳が教科になってはじめての検定である。学習指導要領の「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」という項目などに合わないとの修正意見を受けた教科書は「修身的（教育勅語的）教科書」になるかもしれない。

高校の政治・経済では「ときの政権の『解釈』によって従来違憲とされてきたものが合憲とされるようなことになれば、国家権力を制限するための憲法はその存在意義を失ってしまうため『立憲主義』そのものを否定するものだとする批判も強い」と集団的自衛権行使にかかわる記述が検定により本文から削除され、注

として傍線の部分が「安倍政権は、歴代内閣が違憲としてきた集団的自衛権行使を『部分的に』認める閣議決定をおこなった」と変った（小さい字で）。

安倍政権により教科書の内容は「戦争のできる国づくり」「戦争のできる人づくり」へと悪化されている。

第一次安倍内閣は教育の行政からの独立性を規定した教育基本法を改悪し、教育内容に国家権力が介入する道を開いた。教育統制たる検定制度の強化等の「戦争のできる人づくり」を許さない闘いへのとりくみを教育関係者だけでなく、国民運動としたいものである。子どもづくりは国民づくりであるから。「森友学園」のような子どもづくりをさせてはならない。

労働大学企画編集委員 稲葉 耕一